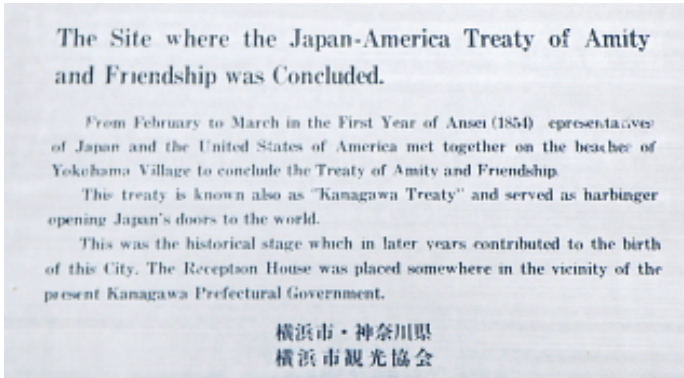


# 開港広場公園 記念碑・遺構等概要

## ① 《日米和親条約締結の地》

安政元年(1854年)2月から3月にかけて、日米代表が横浜村の海岸で会見、和親条約を結んだ。これは、神奈川条約ともいわれ、日本の開国を促し、本市誕生の遠因ともなった。歴史的舞台となった応接所のあとは、現在の神奈川県庁の付近である。



## ② 明治10年代に築造された 《レンガ造りマンホールと下水管》 国登録有形文化財(第14-0021号)



※明治15年頃築造され、昭和57年に発見されたもので、日本人が設計した我国最初の近代下水道施設です。



(ガラス窓より、中の遺構が見られます。)



### ③ 《旧居留地90番地の大砲》



【口径11.5Cm 全長282.5Cm 重量1480Kg】

外国人居留地90番地（現山下町90番地）に、生糸の輸出と時計の輸入に従事していたスイスの商社、シーベル・ブレンワルト商会〔慶応元年(1865)創立〕があり、明治維新の際の戊辰戦争中は武器の輸入も行っていました。

昭和34年、同社跡地で建物の基礎工事中に大砲が見つかり、掘り出され展示されておりましたが、平成15年(2003年)横浜市に寄贈されました。

この大砲は、鑄鉄製の11ポンドカノン砲で、オランダ東印度会社のエンクハイゼン商館所属船の備砲です。使わなくなった大砲を錨に作り変え、横浜に入入りする船に売買するために持っていたものが、大正12年(1923年)の関東大震災の時に、地中に埋まってしまったのではないかと推察されます。

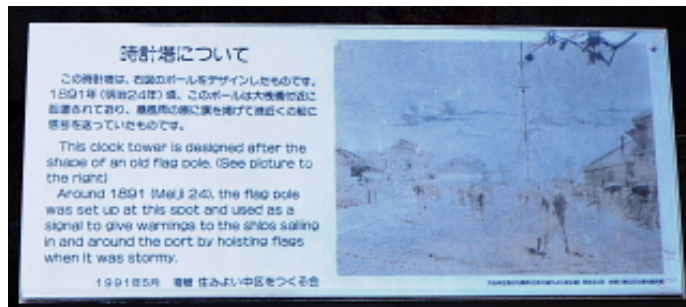
明治43年に出版された書籍に、同社の「倉庫の入り口に明治初年に武器を扱っていた記念として大砲が備えつけられていた」という記載があります。

明治初期の外国人居留地の外国商館と取扱商品並びに輸入先がわかる遺品として、貴重な資料です。



平成15年12月 横浜市教育委員会

### ④ 《時計塔》



### ⑤ 《日米交流150周年記念植樹》

